

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	知的障害者小規模通所授産施設運営補助事業	コード	福祉事務所障害者福祉係
		02-01-03-09	担当者 坂本 寛
事業実施期間	平成17年4月1日～平成18年3月31日		
	電話 内線183		
総合計画 事業（政策）体系	大項目	健康でやさしさあふれるまちづくり	
	中項目	やさしさあふれるまちづくり	
	小項目	障害者（児）福祉	
	施策	社会参加の促進	

事業について	
目的	知的障害者小規模授産施設の事業運営に対して、国、県、市で補助を行う。
対象 (誰のために)	知的障害者
内容	国庫補助基準額10,500千円を国1/2、県1/4、市1/4の補助率で補助を行う。

事業の結果	
実施項目	17年度
	回数など (単位)
施設通所者数	18 人

事業費 (単位：千円)	事業費	10,500	財源	7,875
	人件費	1,860	市債	
	合計	12,360	合計	0

必要人員	0.21	人
------	------	---

結果指標①	結果指標名	施設通所者数
	結果指標量	18
	単位	人
	対前年比	0.00%

結果指標②	結果指標名	市内知的障害者数
	結果指標量	276
	単位	人
	対前年比	0.00%

事業の成果		
成果指標名	施設通所者数	式又は説明
成果指標量	17年度	
対前年比	18	0.00%
到達目標値	18	到達目標年度 18年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	18年度以降補助金額が減少するよ ていである。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	国の基準による補助を行っている。
	手段の最適化	
有効性の評価	市民の関与の妥当性	施設の運営は適切に行われている。
	職場の効率化	
総合評価	目的達成度	評価区分 <A~E> B
	成果向上の可能性	
今後の方向性	市民参画度	B
	コメント	

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

総合評価		評価区分 <A~E> B
コメント	国の制度改革により、補助金の削減とともに事業の転換が求められており、19年度から新事業体系に移行する予定である。	

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合	
翌年度結果指標量①	18	結果指標量②
目標値	結果指標量	18

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	新事業体系への移行	平成19年度	施設の自主運営